

新道小学校での建築課題作品の発表と交流

鍵谷新、小林隼人
 渋川将佳、鈴木優大
 指導教員：倉知徹、黒木宏一

1. はじめに

新潟工科大学工学科建築コース3年の授業「建築設計製図Ⅱ」では、大学近くの柏崎市立新道小学校の敷地を題材に、小学校の設計課題を出している。「次世代のオープンスクールの設計」というテーマで、今年度は45人が自由な発想で設計に取り組んだ。正課の授業では、45名全員が学内で作品発表をするが、課題提出後に4作品を選抜し、9月9日（月）に新道小学校で作品発表と児童との交流会を開催した。本稿では、この取り組みについて紹介する。

2. 課題の概要

2-1 課題のスケジュール

次世代のオープンスクールの設計の今年度の全体スケジュールを表1に示す。中間講評会や最終講評会等を実施し、9週間で取り組む課題である。この課題では、実際の敷地を用いて周辺も含めた実際の環境を知ることが重視されている。この課題は平成28年度から取り組んでおり、初年度に現地見学の依頼をする過程で、課題成果の作品を小学校で発表することとなった。小学校での発表は、今年度で4回目である。

表1 課題のスケジュール

Step	日程	内容
Step1 課題説明 & 見学・敷地調査	5月27日(月)	1) 課題説明 2) Step1の説明 3) 新道小学校見学
Step2 基本構想	6月3日(月)	1) 対象敷地の空間分析レポート・敷地模型提出と解説 2) Step2の説明 3) Step3の説明
Step3 基本計画	6月10日(月)	1) 教室ユニット(平面図)の提出 2) Step4の説明
Step4 基本設計Ⅰ (平面計画)	6月17日(月)	1) 特別教室、管理諸室(平面図)の提出 2) 校舎と体育館の構造計画Ⅰ
	6月24日(月)	1) 中間講評会(校舎の平面計画の提出) 2) Step5-1の説明
Step5 基本設計Ⅱ (断面、立面計画)	7月1日(月)	1) 校舎と体育館の構造計画(断面図)提出 2) Step5-2の説明
	7月8日(月)	1) 校舎と体育館の立面図提出 2) Step6の説明(4時限の最後)
Step6 最終設計	7月22日(月)	1) 屋外空間計画図(敷地全体)の提出 2) 最終設計図面作成・プレゼンテーション準備
	7月29日(月)	最終講評会
番外編	9月9日(月)	新道小学校で発表

2-2 選抜4作品

今年度は鍵谷新、小林隼人、渋川将佳、鈴木優大の4作品が選抜された。以下の4作品の一部を掲載する。それぞれ、杉の木をイメージした3階建ての校舎案、グラウンドを一周囲む分棟配置校舎案、商店街のように町家

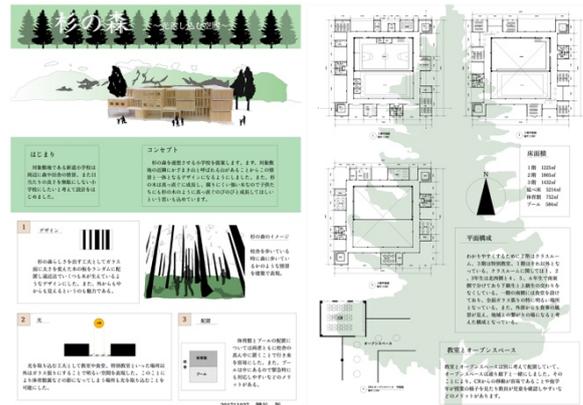


図1 鍵谷新の作品(一部)

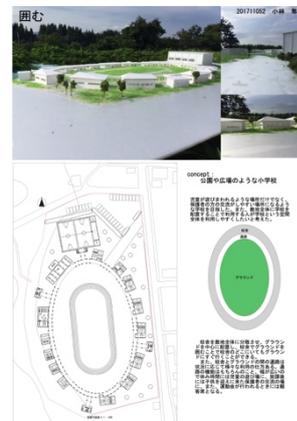


図2 小林隼人の作品(一部)



図3 渋川将佳の作品(一部)

流す

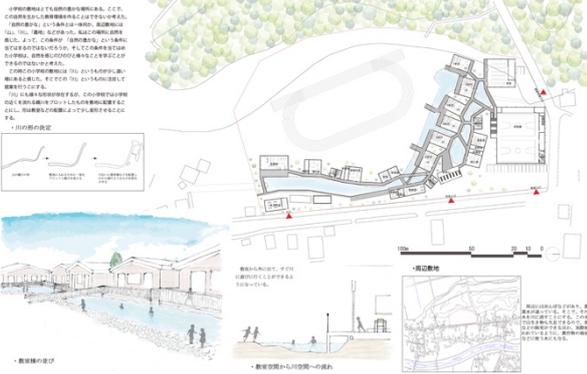


図4 鈴木優大の作品（一部）

と雁木で校舎を作る案、敷地内に川を流し自然環境を取り込む校舎案となっている。

3. 新道小学校での発表・交流会

3-1 当日の様子

9月9日（月）に新道小学校で6年生26名に、4作品の発表・交流会を開催した。1作品ごとに発表し（図5）、質問などを受け付けた。4作品の発表後、模型をよりよく見てもらうために、4つの島に分かれて個別で質問などを受け付ける時間をとった。大学での講評会では教員からの質問やコメントとなるが、この発表会は小学生からの質問となる。実際に新道小学校を使っている小学生からの質問は、素朴かつ本質を突くような鋭い質問が多く、学生も答えに窮することが多かった。



図5 作品発表の様子



図6 模型を囲んだ交流の様子

3-2 発表した学生の感想

発表した学生の感想を表2に示す。大学生からすると、学内の課題と講評会では得られない貴重な経験と学びの場となっていることがわかる。

表2 発表した学生の感想

鎌谷新	新道小学校の発表を通じて得たことは、純粋な考え方です。それは小学生たちとのディスカッションの中で得ることができました。模型を見た小学生たちの様々な視点から、疑問が飛び交い私自身も気づかなかった欠点に気付きました。大人なら忘れてしまっているような現在進行形で小学校に通ってる小学生だからこそ言えることばかりでした。私も小学生たちの純粋で柔軟な考え方を学ぶべきだと感じました。
小林隼人	小学生の前で発表することが決まった時には、どのような反応をされるのかという不安がありました。実際の発表では設計の特徴を分かりやすくまとめたり、具体例を多く入れるようにし分かりやすくなるようにしました。発表の反応としては、楽しそうというような意見を多くもらえ、うれしいと感じたと同時に、提案の痛いところを突かれたり、自分では意図していなかった意見が出てきたため、提案内容をしっかり見てくれていると感じ驚きました。
渋川将佳	私は、子供達に対する発表の難しさを実感しました。子供達には、わかりやすい言葉を使い、また子供達に共感していただけるように、興味を持っていただけるように、自分の子供の頃の気持ちや、こんなことしてみたらいい、思っていたことを発表の途中途中で混ぜながら話しました。子供達は、細かい部分までしっかりみていて、自分や同級生が気づかなかったことや素直な質問をいただき、大人と子供では見る観点が大きく違うと感じました。
鈴木優大	今回は小学校の設計ということで、実際に周辺の環境を見に行き、その環境にあったものを考えたいと思った。そして、何より児童の視点になり、構想を開始した。そこで私は大きな考えとして小学校に川を流すという提案をした。これを実際の小学生に話すことになるので、楽しさなどを多く語ればわかりやすいと感じてもらえると思っていた。だが、小学生達の感性というものとは違い、自分の考えつかない点や、小学校に在学中であるため思いつく点などが多く出てきて、考え方をさらに多くの視点からしなければならぬと感じた。

4. 小学生からのお礼のお手紙

発表会終了後に、小学生が感想文を書いたお礼のお手紙をもらった。小学生が1人づつB5サイズの紙に、作品の感想や、学生へのお礼の言葉をたくさん書いてくれた（図7）。小学生にとっては、大学生の課題作品とはいえ建築の図面や模型を見るのが初めてであり、建築の世界を知る貴重な機会となったことがわかる。

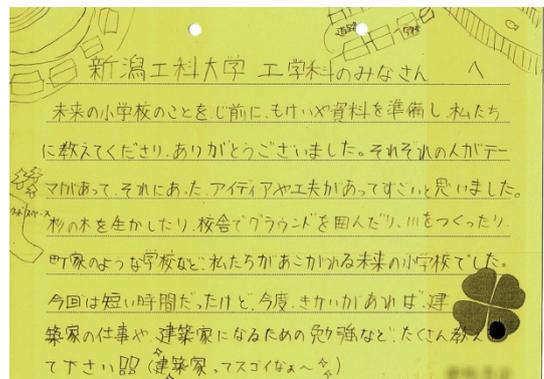


図7 小学生からのお礼の手紙

5. まとめ

大学での建築設計課題を小学生に発表し、交流することで、双方が刺激を受け成長のきっかけを得ることができたと考えられる。